

# 早稲田大学の学生が原子力発電所を視察

九月二日に、早稲田大学政治経済学部・中村理准教授のゼミが、新潟県柏崎市と刈羽村にまたがる柏崎刈羽原子力発電所を視察しました。

柏崎市と刈羽村にまたがる柏崎刈羽原子力発電所を視察しました。広大な敷地をバスで周りながら、発電設備のある建屋内まで視察し、原子力発電の仕組みを学びました。また、発電所の視察後は、柏崎市で会社を運営する小林英介さんと早稲田大学の学生が、意見交換を行いました。

(編集部)

## 発電所を視察した感想

今回の視察では、コーディネーターとして、東京都市大学 准教授の牟田仁さんに同行いただきました。視察後の意見交換会で、牟田さんが学生に、発電所を視察した感想を訊ねました。

「視察して、ものすごい人手やコストをかけて安全対策を徹底しているなと感じた」、「原子力は恐ろしいというイメージが先行していたが、視察で徹底して事故防止に取り組んでいる様子を見て、一八〇度くらい印象が変化した」という意見がありました。このように、発電所を視察して、安全対

東京電力ホールディングス(株)提供



●発電所の建屋内を視察

策に非常に力を入れていることがわかったという意見は多く出ていました。

## 地元住民と意見交換

地元・柏崎市の小林さんとの意見交換では、発電所の立地している地域に住む住民と、発電所から送られてくる電気を享受する首都圏の住民の当事者意識の違いが指摘されました。また、報道を通した情報からは、原子力は危ないというイメージを受け取ったが、実際に自分で視察して安全対策について学ぶことで、事業者を信頼できたという意見もありました。

小林さんは学生に次のようなメッセージを伝えました。

「メディアは原子力発電所と地元の経済を結び付けたりしますが、再稼働した



●視察後、学生は時間いっぱい意見交換していた

からといって、即、柏崎の経済が潤うというわけではないと思います。

日本のエネルギーセキュリティに関しては、ウクライナ侵攻をはじめとするさまざまな問題があります。日本のためにも、輸入に頼っているエネルギーを、原子力を活用してどうにかしたい、柏崎の住民の想いはそこにあるのではないのでしょうか。